

時代に合わせたシステム環境を

タツプ



代表取締役
清水吉輝氏

カスタマイズ可能な クラウド型システム

タツプ（東京都江東区）

は1985年の設立以来、宿泊施設に特化した各種システムを提供、これまでに全国で500以上の施設で採用実績があると

いう。同社の強みは、パッケージ化したシステムにある。同社の清水吉輝社長はこう話す。

「パッケージシステムを提供することで、各施設へ最低限の機能を担保できているのは大きいで

しょう。これをベースに毎年時代の流れに合わせてバージョンアップしていくとともに、個別でホテルの特徴をアドオンするなど、柔軟に対応できるようにしているのです」。

一度導入すれば、その都度改良を図る。「できるだけ長く使えるようにしてもらおう。実際、顧客の中には90年代前半に導入したものでも使っているケースも多いという。近年は、クラウド化が進み、同社も同様のものを提供している。クラウドサービスは、システム会社にとっては開発・メンテナンス費用が低減されるというメリットがあ

る。施設にとってもインシャルコストが安く済む。しかし、単一使用のサービスと同じように利用するクラウド型は、各施設ごとのカスタマイズが難しいという面もある。

そこで同社は、施設ごとに独立したフルカスタマイズが可能なプログラムを提供。「施設形態」はもちろん、「地域特性」「客層」「経営方針」など施設ごとのニーズに合わせることで可能になるという。

「数室から数千室まで、施設の規模を問わず、1社で集客から経営戦略まで全てのソリューションをカバーする。もちろんサイトコントローラーな

どその都度、必要なものは連動できるようにする。クラウド型でも施設に合わせたサービスを提供できるのは、設立以来ホテルに特化したシステムを作ってきた当社ならではのでしょう」（清水社長）。

人的フォローにより ユーザーの声を迅速に

システム自体はもちろん、施設に対しての「人的フォロー」も大きい。

同社の場合、他の大手メーカーとは異なり、販売会社を通さずに直接契約する。そのため「営業マンが販売と開発に係わることができるのです」（清水社長）。

スタッフが定期的に訪問するため、現場に接する機会が多く、その場の雑談で一口拾ってくるこ

とも改良のヒントになるのだという。「仮に新システムが今週できたら、来週にでもすぐに案内する、こういったユーザーからの声を拾ってからスピーディーに対応できる、これは常にスタッフがユーザーとコミュニケーションを図っていないと難しいでしょう」（清水社長）。

今後、施設運営の効率化、省力化はますます進んでいく。スマートフォンキーとの連動や、ロボットの台頭など。「周辺ソリューションとのインターフェイスを柔軟に対応できるように、開発力や人材力を高めていきたい」（清水社長）。

同社はホテル業界での「IOTの中心」を目指していく考えだ。